

特集 3 MASLD/MASHの診断



こぎそともみ
小木曾 智美

東京女子医科大学
消化器内科 講師

要旨

画像または組織学的に診断される脂肪性肝疾患 (SLD) のうち, 心代謝系危険因子 (CMRF) を1つ以上有し, 飲酒量の少ない症例は, 代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (MASLD) と定義された. 他の肝疾患の併存は可能であるが評価する必要がある. 肝関連イベントは肝線維化進行例で高率であり, 非侵襲的血液マーカーやエラストグラフィを併用して評価する. MASLDのうち病理組織学的に脂肪変性, 炎症, 肝細胞傷害 (風船様変性) を認める症例は, 代謝機能障害関連脂肪肝炎 (MASH) と診断され, 肝線維化進行が速いと考えられている. MASHや線維化ステージ別F2~4の肝線維化例は, 肝関連死や全死亡のリスクが高く (at-risk MASH), 薬物治療の適応と考えられる.

キーワード

代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (MASLD), 代謝機能障害関連脂肪肝炎 (MASH),
代謝機能障害アルコール関連肝疾患 (MetALD), アルコール関連肝疾患 (ALD)